

平成 29 年度 大阪学院大学高等学校 学校評価

1 めざす学校像

《教育方針》

本校は、開校以来、学校法人大阪学院大学の建学の精神である『視野の広い実践的な人材の育成』を理念として、将来、高度な専門分野へ導くために、高校時代に身につけておかなければならない「現代社会に必要な基礎学力の習得」に主眼をおいた教育を行うとともに、人格の基礎をつくるしつけと情操教育に加え、一人ひとりの個性や能力を尊重した教育を目指している。

《特色》

本校は、学校法人大阪学院大学の高等学校教育部門で、迫りくる社会生活への対応能力や人間性を高めるうえで、重要な役割を担っている。本校の大きな特色は、大学院を擁する 9 学部（短期大学部を含む）からなる大阪学院大学と 3 つの専門学校（関西経理専門学校、関西健康・製菓専門学校、関西医科専門学校）で構成されている AST カレッジが併設されており、幅広く社会に対応出来る進路が確保されていることである。高等学校と併設大学での 7 年一貫（短期大学部は 5 年一貫）教育、高等学校と AST カレッジでの 5 年・6 年一貫教育を実現することは、「チーム大阪学院」として胸を張って生き生きと人生を謳歌してもらえるようなシステムといえる。このような高大連携・接続は他校にはまねのできないことと自負しており、本校の大きな強みである。本校は、この学校法人のシステムを活用して次に示すような特色づくりを行っている。

【教学面】

本校独自の取組として、毎週土曜日を総合学習の一環として、「SC(サタデーチャレンジ)」を行っている。この SC とは、文部科学省が設定している教科・科目ではなく、各コース（普通・特進・国際・スポーツ科学）でそれぞれ特色ある取り組みを行い、生徒自身が能動的に取り組めるように創意工夫がなされている。

この取り組みに関しては、併設大学のキャンパスを利用して行うことがメインであり、これも他校ではまねのできないことと自負している。

【生活面】

毎朝、全教員が最寄駅からの通学路および正門等に分散して、生徒の登校を見守るようにしている。このことにより、生徒の表情の変化や、体調などを事前に把握しやすくなり、また挨拶を行うことにより、生徒との距離も縮まり関係構築に役立っている。

社会に出て必要また信頼される人材になるためには、「時間を守る概念」を定着する必要がある。そのためには、次に起こることを自分自身が予測し行動する力が必要である。本校では、昨年度より始業 1 分前に、校歌を放送で流して始業の心構えを持って授業に取り組めるようにしている。

【学校活動】

本校では、学年・性別など関係なく、「愛校心」を育むために、全校をあげて生徒の取組を応援している。その一つとして、各クラブでの活躍を全校朝礼時に紹介し、生徒・教職員でその健闘を称えている。また、全国大会の予選や全国大会出場の際も、バスに分乗して応援に駆け付けるようにしている。このように本校の生徒が、自分自身の関心がないことに対してでも、全力で何かに取り組んでいる仲間たちを応援することによって、他人を思いやる気持ちや、努力の尊さを感じ取って、他者を認め尊敬の念を抱けるように生徒を教育している。このことにより、生徒だけではなく、本校教職員や保護者にも連帯感が生まれてくる。

2 中期的目標

1 学習指導について

- (1) 授業開始時間を厳守する。
- (2) 授業中の態度の改善
- (3) 基礎学力の定着と向上
- (4) 成績不良者、低学力者などに対する指導を徹底する。

2 生活指導について

- (1) 遅刻者数を減少させる。
- (2) 携帯電話の使用・携行品指導を徹底する。
- (3) 処分者数の減少に努める。

3 進路指導について

- (1) キャリア教育を推進させる。
- (2) 高大接続の深化に取り組む。

4 人権教育について

- (1) 各学年別に学外講師を招き、講演会を実施する。
- (2) 全校生徒に人権に関連した映画鑑賞を実施する。
- (3) 学校生活やいじめについて調査をし、より良い学校生活ができるよう取り組む。

5 保健について

- (1) 健康診断後の、精密検査・再検査未受検者を減少させる。
- (2) 保健室の利用状況を把握する。
- (3) 保健だよりを定期的に発行する。

6 施設・設備について

- (1) 校舎の耐震に対する対策を検討する。
- (2) 教育環境の充実に努める。

【自己評価アンケートの結果と分析】

| |
|--|
| 自己評価アンケートの結果と分析 生徒アンケート [平成 29 年 12 月実施分] 教員アンケート [平成 30 年 1 月実施分] |
|--|

○生徒アンケート

「教育活動全般に関わる質問調査」 平成 29 年 12 月実施
 全校生徒に対し、別紙 23 項目について無記名による回答として実施した。
 ※アンケート結果については別紙にて報告。

「1. 本校に入学して良かった」、「22. 本校でこれからも長く付き合い信頼できる友達ができ。または、出来るだろうと思う。」、「23. 本校で充実した学校生活を送っている」については、他の項目と比べて肯定的評価（アンケート結果で「そう思う」、「おおむねそう思う」の評価）が高くなっている。また、「16. 校外学習」や「17. 球技大会」、「18. 体育大会」、「19. 文化祭」等の学校行事に対する項目や「11. 本校は基本的な生活習慣の定着や社会のルールを守ることもしっかり指導していると思う」や「12. 本校は生徒の健康や安全、命の大切さに関する指導をしっかり行っていると思う」、「21. 本校は、校舎や校庭、グラウンドなどの施設設備が整っていると思う。」等についても、他の質問項目と比べ肯定的評価が高くなっている。

一方で、「6. 本校には分かりやすい授業を行ってくれる先生が多いと思う」や「7. 本校には各教科の基礎・基本の習得を図り、進路実現に対応できる学力を身に付けさせてくれる先生が多いと思う」という授業に関する項目や「10. 本校には自分の成長に効果があると思える取り組みが多いと思う」、「13. ホームルーム活動では、生徒が自主的に取り組み、互いに協力して活発に行っていると思う」という将来の進路設計等、生徒本人に関する項目については肯定的評価が低い学年がみられた。

○教職員アンケート

「自己（授業）評価」 平成 30 年 1 月実施
 全教員に対し、別紙 24 項目について無記名による回答として実施した。[有効回答数は 99 名]
 ※アンケート結果については別紙にて報告。

自己（授業）評価の考察を行うにあたり、回答の中で「全くその通り」「どちらかと言えばその通り」の回答を肯定的評価として考えると、全 24 項目中 14 項目で肯定的評価が 80%を超えている。

特に、「5. 生徒が学ぶ力や考える力を得られるように、授業を工夫している。」、「8. 生徒の理解を促すように、発問や板書を工夫している。」、「10. 授業内容に関する生徒の質問については十分な対応をしている。」、「11. 生徒とは授業および他の活動の中で、十分にコミュニケーションをとっている。」、「19. いつも授業にふさわしい雰囲気づくりを心掛けている。」、「22. HR やクラブ活動、受け持ち授業での生徒間の様子など、常に注意深く観察している。」、「23. 生徒が間違った言動をしたときに、間違いを気づかせるように根気強く取り組んでいる。」の 7 項目については肯定的評価が 90%を超える結果となった。

一方で、「7. 小テスト等を適宜行い、生徒の理解度や到達度の把握に努めている。」、「13. 生徒は、予習・復習等の家庭学習にしっかりと取り組んでいる。」、「17. 生徒は年次に応じた進路意識をもって学習に取り組んでいる。」、「18. 生徒は授業で学んだことから更に意欲・関心を深めている。」の 4 項目については、肯定的評価が 60%を下回った。

○保護者

本校では、教育活動の充実や行き届いた生徒指導を行うため、学校と保護者が緊密な連携をとり、本校後援体制のより一層の強化を図ることを目的として、平成 16 年度から後援会組織と協力の上、保護者の学級委員を各クラスから選出し、同委員取りまとめによる保護者のクラス会を開催している。クラス会では、保護者同士の親睦を図ることを前提として、色々な場面や雑談の中で出てくる意見などを同委員が取りまとめ、これを学校と後援会組織で検討し、可能なものは前向きに対応していくという形式を取っている。これは、保護者皆様が不安に思っていることや生徒指導上の問題点等の早期解決と学校のより良い方向性を見出すことに役立っている。

クラス会で出た意見等に関する対応状況の報告会は毎年行っており、今年度は平成 30 年 1 月 27 日（土）に開催し以下の項目に関する報告を行った。

- ・ 内部進学（併設大学）に関する事について
- ・ 進学模試の受験機会について
- ・ HP での配付文書の公開内容について
- ・ レインコートの置き場所について
- ・ サタデーチャレンジの内容について
- ・ テスト前など、各教科の先生方へ質問に行きやすい環境を作してほしい。
- ・ 苦手教科をフォローする勉強会の実施や先生同席の学習室などを開放してほしい。
- ・ 制成品や服装規定に関する事について 等

学校関係者評価委員会からの提言

平成 30 年 9 月 11 日（火）11：00～13：15 本校第 1 会議室にて開催

1. 学校評価について

- (1) 学校評価を拝見して、先生方のご苦勞が非常に感じられる。多様な生徒さんも増えて来られ、郊外の小学校では 1 クラス 15 名～20 名の学校も増えていると聞くので、1 クラス 40 名と聞くと担任の先生も大変だと思う。
- (2) スポーツの盛んな学校ではあるが、普通クラスでは運動部と文化部、またクラブに所属をしていない生徒たちが、体育大会や文化祭など、クラス単位で非常に良くまとまって楽しく活躍されている印象があり、そのあたりも学校の好印象につながっていると思う。
- (3) 高大連携の部分では、学校評価に示されている学校の特色が十分に生かされていないように感じるので、今後は更に特色をアピールする必要がある。
- (4) 併設大学のアピールをもう少し頑張っていたきたい。生徒も保護者も併設大学入学後に初めて知ることが多くあるので、そのあたりを在校中にもう少し詳しく教えていただけたら、併設大学への進学者も増えると思う。
- (5) 併設大学へ内部推薦で進学する場合は、他大学へ進学する生徒と比較して受験勉強の負担が少なくなるので、親としてはその時間を自分の将来やりたいことに有効的に使ってもらいたいと思っている。
- (6) 高校から大学に進学し、大学卒業後の就職に至るまでをもう少し明確に示してもらえれば、生徒たちも大学を選びやすいと思う。
- (7) 学習面について、成績不良者や低学力の生徒への指導について、先生方にはご負担をお願いする事にはなりますが、保護者の立場として、補習や居残り勉強など引き続き力を入れてもらいたい。
- (8) 毎年単位を落とす生徒がいるとのことで、今までもいろいろ考えられていると思うが、また理由にもよりますが、単位を落とさせないような方策も考えていただく必要がある。

2. アンケート調査について

- (1) いろいろ質問調査を行われているが、相対的に見させていただいて肯定的な評価が全体の 60%を切るか切らないかがひとつのガイドラインであるように感じた。
- (2) 生徒アンケートにおいて、学年が上がるたびに肯定的な評価が下がる項目がいくつもある。特に質問 6 や質問 10 などは、2・3 年生では 50%を下回っているので、そのあたりを重点的に取り組んでいただき、肯定的な評価（生徒の満足度）が上がっていくように考えていただきたい。
- (3) 教員アンケートにおいても、評価のバラつきが非常に目立つ。こちらの肯定的な評価が低い項目については、改善するように考えていただけたら良い。No.13 などは、肯定的な評価が 15.1%しかないので、この項目を含め、特に低い項目については、積極的に取り組んでいただき、生徒と先生方との相互理解に努めていただきたい。

3. その他

- (1) 併設大学があるメリットを生かして、海外留学のような形の大学体験入学のような取り組みを行えないか。
- (2) 全体的におとなしい生徒が多い。また生徒の多くが我々にもきちんとあいさつをしてくれるのでとても気持ちがいい。これは日頃の先生方のご指導の賜物だと感じる。
- (3) そのことは、他の皆さんからも聞いていて、良い印象を持っている外部の方も多し。またクラブ活動が盛んだが、クラブ生以外の生徒たちの居場所も作っていただけており、うちの子供も先生方にいろいろ助けていただき、無事に卒業ができた。
- (4) 在学中に併設大学からの情報が少ない。保護者会の時に説明ブースを設けているが、かしまった場所では話しが聞きづらい。学院祭の時などにも説明ブースを設けていただければ、もう少し話しを聞きやすい雰囲気になると思う。1 学期の保護者会時に、エレベーターホールにブースがあり、話しが聞きやすい感じがした。

3 本年度の取組内容及び自己評価

| 中期的目標 | 今年度の重点目標 | 具体的な取組計画・内容 | 評価指標 | 自己評価 |
|---------------|------------------------------|---|---|---|
| 1 学習指導について | (1) 授業開始時間を厳守する。 | (1) ア 各教員が始業チャイム前には教室に入室する。 イ 授業の重要性や時間を守る大切さなどを説明指導する。 ウ 始業チャイムの1分前に予鈴を鳴らす。 | (1) ア イ 教員が、始業チャイム前に教室に入室できていたか。 ア イ チャイムと同時に授業を開始できていたか。 ウ 予鈴を鳴らすことができていたか。 ア イ ウ 生徒アンケートの質問11「本校は基本的な生活習慣の定着や社会のルールを守るとをしっかりと指導していると思う。」の肯定的評価が70%以上。 | (1) [O] ア イ 多くの教員が始業チャイム時には入室できていたが、全教員が入室できる努力が必要である。 ウ 始業1分前に予鈴を鳴らすことができていた。 ウ 始業1分前の予鈴については、効果があったがさらなる生徒への授業準備の徹底が必要である。 |
| | (2) 授業中の態度の改善 | (2) ア すべての生徒が、すべての授業に前向きに取り組む姿勢を養う。 イ 授業内容を充実させ、進め方などを工夫する。 ウ 担任や教科担当教員が授業の重要性などを根気よく説明指導する。 | (2) 生徒アンケートの質問20「教室内の雰囲気、環境は快適であると思う。」の肯定的評価が70%以上。 | (2) [△] ア イ 教科担当教員だけでは、注意改善はできなかった。 ア イ 授業中の巡回などをもう少し増やして、組織的に取り組む必要がある。 ア イ ウ 生徒規則に照らし合わせ、授業で落ち着いて取り組めない生徒に対しては、厳しく対応する方策が必要である。 |
| | (3) 基礎学力の定着と向上 | (3) ア ICT教材の導入で、学習習慣をつける。 イ 宿題を定期的に出して、家庭学習時間を増やす。 ウ 苦手単元などを振り返り、取り組ませる。 | (3) ア イ 宿題を定期的に出すことができているか。 ア イ 宿題の取り組み状況がよくなっているか。 ウ 学習への取り組みがよくなっているか。 | (3) [△] ア ICT教材を用いた宿題配信を行い、一定の効果はあった。 ア 各教科が定期的に宿題を出すことができていなかった。 イ 宿題を提出しない生徒に対しては、最後までやらせる必要がある。 イ ウ 取り組み状況の良い生徒に対しての声掛けを、さらにする必要がある。 ア イ ウ 自主的に学習に取り組む生徒を増やす方策が必要である。 |
| | (4) 成績不良者、低学力者などに対する指導を徹底する。 | (4) ア 各教科担当者が、成績不良者を出さないという姿勢で指導する。 イ 該当生徒には積極的に声をかけ、理解度を把握し、丁寧な指導を心がける。 | (4) 各学期の欠点者の人数が減少したか。 | (4) [△] ア 上級学年の欠点者の人数が増える状況を防ぐことができなかった。 ア 1年生に対しては、欠点者も少なく、様々な勉強に対する取り組みの効果があつた。 ア イ 放課後の定期的な強制補習の検討が必要である。 |

| | | | | |
|---------------|--------------------------------|---|--|---|
| 2 生活指導について | <p>(1) 遅刻者を減少させる。</p> | <p>(1) ア 昨年に引き続き、遅刻者には生徒手帳のカレンダー欄に遅印のハンコを押す。 イ 遅刻をしてきた生徒には、遅刻理由を尋ねるとともに、理由によっては説諭を行い、常習にならないよう努める。</p> | <p>(1) 遅刻者を全学年で昨年度より1割以上減少したか。</p> | <p>(1) [○] H29 延べ遅刻者数 4,670名 (△796) [H28 延べ遅刻者数 5,466名] 昨年と同様にハンコを押す取り組みにより、遅刻者の常習性が一目瞭然で把握できるため、家庭との連携を行うとともに、常習性の高い生徒にも丁寧な説諭を行うことにより、全体で14.6%の遅刻者減少につながった。 また、次年度以降も更なる減少に努められるよう、生活習慣の改善に向けての取り組みや遅刻連絡を入れない生徒が多いため、遅刻連絡の指導を徹底する。</p> |
| | <p>(2) 携帯電話の使用・携行品指導を徹底する。</p> | <p>(2) 携帯電話の使用や携行品の指導については、教員全員が一体となって行うことを基本とする。本校の規則を遵守させるよう徹底した指導を続ける。</p> | <p>(2) 携帯電話や携行品の預かり指導件数が減少したか。</p> | <p>(2) [○] H29 指導件数 192件 (△91) [H28 283件] 携帯電話の使用に関する規則は、徐々に浸透しているように感じるが、徹底が出来ていないため、引き続き遵守するよう指導を行う必要がある。。また、女子の携行品(主に化粧品)についても以前と比べ少なくなってきたが、携帯電話と同様に徹底した指導を継続する。</p> |
| | <p>(3) 処分者数の減少に努める</p> | <p>(3) 生徒に対しては、オリエンテーション時に注意を呼びかける。 保護者に対しては、新入生は入学式において資料を配付し注意を呼びかけ、2・3年生には6月の保護者会で担任から資料を配付する。</p> | <p>(3) 昨年より処分者数が減少したか。</p> | <p>(3) [×] H28 47件 → H29 56件 昨年と比べ、SNS関係の処分者が大幅に増加した(2件→16件)ため、次年度は SNS 関係のトラブルを回避する対策を講じる。 また、授業放棄、授業妨害での処分者は昨年より減少した(11件→3件)ため、引き続き厳しく指導を行う。</p> |

| | | | | |
|-----------------------|---|--|--|---|
| <p>3 進路指導について</p> | <p>(1) キャリア教育を推進させる。</p> <p>(2) 高大接続の深化に取り組む。</p> | <p>(1)</p> <p>ア 第1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み物教材、手作り教材を活用した進路ホームルームを実施する。 ・進路適性検査の実施と担任による個別相談を実施する。 <p>イ 第2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手作り教材を活用した進路ホームルームを実施する。 ・進路適性検査の実施と担任による個別相談を実施する。 <p>ウ 第3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手作り教材を活用した進路ホームルームを実施する。 <p>(2)</p> <p>ア 2・3学年</p> <p>希望者ならびに併設大学内部進学予定者に対し、課外の時間を利用して併設大学の特別科目履修を実施する。</p> <p>※これは大学生に交じり大学の授業を受けるものであり、単位が認定された場合、併設大学の卒業要件単位数に計上することができる。</p> <p>イ 2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路ホームルームにおいて「夢ナビプログラム(株)フロムページ」を実施する。 ・総合学習の一環として「夢ナビプログラム(株)フロムページ」に参加する。 <p>ウ 3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合学習の一環として、多くの大学や専門学校の入試広報担当者や教員を招き、進路ガイダンスを実施する。 ・総合学習の一環として、就職希望者を対象に職場見学ならびに合同企業説明会に参加する。 ・多くの大学や専門学校と進路提携を結び、特別推薦枠を設定する。 <p>エ 教員の資質向上に供するため、外部講師を招聘し教員研修会を実施する。</p> | <p>(1)</p> <p>ア イ ウ</p> <p>各学年に合わせた進路ホームルームを実施したか。</p> <p>ア イ ウ</p> <p>進路適性検査を基に担任が個別相談を行ったか。</p> <p>ア イ ウ</p> <p>生徒アンケートの質問 8 「本校には進路に関する情報を随時生徒に提供し、生徒の適性や希望に応じた進路指導を行ってくれる先生が多いと思う。」の肯定的評価が60%以上。</p> <p>(2)</p> <p>ア ウ</p> <p>併設大学への進学率が前年度より増加したか。</p> <p>ア ウ</p> <p>大学・専門学校への進学率が前年度より増加したか。</p> | <p>(1) [△]</p> <p>進路適性検査については、検査結果を各生徒に知らせるに先立って、検査結果の見方や指導方法に関し、講師を招いて教員に対し事前研修を行った。これにより、よりきめ細かな指導が行えるようになり、キャリアに対する興味関心、そして教科学習や学校生活への意欲や態度に向上がみられた。</p> <p>キャリア教育の手段としては、読み物教材および講演会などの座学に止まっているため、キャリア教育をより実践的なものとするよう、今後は職場体験なども積極的に取り入れる必要がある。</p> <p>※今年度使用した教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み物教材「高校生活スタート号(ベネッセ社)」 ・読み物教材「じぶん未来 Book (リクルート社)」 ・手作り教材「進路のしおり(合格体験記)」 <p>(2) [○]</p> <p>併設大学の特別科目履修は参加者が多く、有意義に過ごしているようである。単位を修得できた者が併設大学に進学した場合、より自由度の高い大学生活を送ることができるものと期待できる。</p> <p>また、教員研修会については参加者も多く、好評であった。次年度からは定例化させたい。</p> <p>大学や専門学校との情報交換については、個人情報保護の観点から慎重に対応しなければならない場合が多い。</p> <p>高校卒業時に、または大学や専門学校入学時に高大連携の観点から、卒業高校と在籍大学・専門学校とで情報交換をすることに関して、了承を得ておく必要があるかもしれない。</p> <p>※併設大学進学者数と進学率</p> <p>H29 222名 42.6% (H28 219名 40.2%)</p> <p>※大学・専門学校進学率</p> <p>H29 92.3% (H28 91.7%)</p> |
|-----------------------|---|--|--|---|

| | | | |
|--|---|--|---|
| <p>(1) 各学年別に学外講師を招き、講演会を実施する。</p> <p>(2) 全校生徒に人権に関連した映画鑑賞を実施する。</p> <p>(3) 学校生活やいじめについて調査をし、より良い学校生活ができるように取り組む。</p> | <p>(1)</p> <p>ア 1学年については、高校生になり携帯やネットでの友人関係の構築がはじまることから、インターネットやSNSに関する講演を行い、講演後にはアンケート・感想文を実施する。</p> <p>イ 2・3学年においては生徒の成長に合った課題として、自分を大切にすること、他人を大切にすることの必要性を考えさせることを目的とする。講演後には、アンケート・感想文を実施する。</p> <p>ウ 教員対象の講演会では、セクハラを含むハラスメント全般についての知識や対応方法を学ぶと共に、学校全体の危機管理についても講演する。</p> <p>(2)</p> <p>実施後には感想・アンケートを実施することで、内容が定着し生徒の印象に残るように努める。</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校生活・人権などの意識調査を2回実施する。(1学期と2学期に各1回)</p> <p>イ 調査結果を活用するため、いじめ防止委員会および教員対象の勉強会を開催し、全教員でいじめと不登校の防止に取り組む。</p> | <p>(1)</p> <p>各学年の課題に応じた適切な講演者を選定し、講演会を実施したか。</p> <p>(2)</p> <p>人権に関する映画鑑賞の実施と実施後の感想が好評であったかどうか。</p> <p>(3)</p> <p>教育活動全般に関する質問調査の質問23「大阪学院大学高等学校で充実した学校生活を送っている」の肯定的評価が60%以上。</p> | <p>(1) [O]</p> <p>ア 1学年 開催日：平成29年11月7日(火) 内容：「インターネットと人権について」 講師：西山陽雄氏(大阪法務局 人権擁護部)</p> <p>イ 2学年 開催日：平成29年7月15日(土) 内容：「互いのこころとからだを尊重しよう」(デートDV防止対策) 講師：伊田広行氏(立命館大学 非常勤講師)</p> <p>イ 3学年 開催日：平成29年11月25日(土) 内容：「性的マイノリティ(LGBT)についての知識を学ぶ」 講師：川西寿美子氏(大阪私立学校人権教育研究会指導員)</p> <p>ウ 教員対象 開催日：平成29年12月5日(火) 内容：「学校におけるいじめについて、被害者・加害者への対応、保護者対応および学校危機管理のポイント等について」 講師：峯本耕治氏(長野総合法律事務所)</p> <p>本校でも携帯電話(SNS等)などの間違った使用による生活指導の案件が増加しており、今後も1学年時にしっかり指導を行う。 2・3学年においては、今後は講演以外でも各種資料を配付し、生徒の自覚を促す。 また、教員対象研修会も定期的に実施し、今後とも教員の勉強ならびに心のケアに留意していく。</p> <p>(2) [O]</p> <p>題目：「この世界の片隅に」 実施日： 1学年：平成29年11月4日(土) 2学年：平成29年11月18日(土) 3学年：平成29年10月28日(土) 感想も概ね好評であった。また今年度は生徒の意見(抜粋)を発表するなど、結果を還元することもできたため、次年度以降も継続していきたい。</p> <p>(3) [O]</p> <p>今年度は肯定的な評価が66.3%と昨年度から大幅に向上したので、次年度は更に向上できるよう、教員の意識を更に伸ばし、意識調査の結果を詳細に分析していく。</p> |
|--|---|--|---|

| | | | | |
|---|--|--|---|---|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5 保健について</p> | <p>(1) 健康診断後の、精密検査・再検査未受検者を減少させる。</p> <p>(2) 保健室の利用状況を把握する。</p> <p>(3) 「保健だより」を定期的に発行する。</p> | <p>(1) 昨年と同様に、以下の取り組みを行い、未受検者の減少に努める。 ア 校内放送で受検を呼びかける。 イ 再検査日、再々検査日を設ける。 ウ そのうえで未受検者には、本校指定の医療機関での受検を勧める。</p> <p>(2) 近年、保健室の利用者が増加傾向にあることに対し利用の現状を分析し、無用な来室者を減少させるとともに、保健室本来の病気やケガの生徒に対する対応を行う。 ア 授業中の保健室利用については、授業担当者の許可証を持たせることとし、許可証の無い生徒は教室に戻させる。 イ 保健室の利用時間について、原則1時間である旨を徹底させる。 ウ 保健室内での飲食禁止、携帯電話の使用禁止を徹底する。</p> <p>(3) ア 生徒たちの心身の健康をはじめ、学校生活をサポートする。 イ 保健だよりを通して、生徒に対する保健指導や日常生活、健康上の注意喚起を行う。</p> | <p>(1) 未受検者が0名になったか。</p> <p>(2) 無用な来室者の減少と、病気やケガの生徒への対応に注力できたか。</p> <p>(3) 教育活動全般に関する質問調査の質問12「本校は生徒の健康や安全、命の大切さに関する指導をしっかりと行っていると思う。」の肯定的評価が60%以上。</p> | <p>(1) [O] 昨年度の取り組みにより大幅な改善が見られたため、今年度も同様に未受検者に受検を呼びかけた結果、今年度は5名の精密検査未受診者がいたが、12月には学校医の協力もあり、全員受診することができた。 次年度以降も引き続き未受検者が無くなるように努めるとともに、精密検査の受診について、先に校医の診察を行い、精密検査が必要かどうかの判断を行うようにする。</p> <p>(2) [O] 授業中の利用については、許可証を発行することと、授業担当者の指導により、些細な理由で来室をする生徒は少なくなった。 全体の来室者についても、3,360名(H28)から3,062名(H29)と8.8ポイント減少しており、このことから健全に利用されるようになったことが窺える。 次年度も引き続き、利用方法を徹底させることにより、保健室を健全に利用できるよう努めるだけでなく、少数ではあるが精神的な問題から教室へ入りづらい生徒も居るため、そちらのケアも考えていきたい。</p> <p>(3) [O] 今年度は7回発行することができ、内容についても、それぞれの時期に応じた内容で周知することができたので、次年度も継続して発行し、生徒たちの健康面、生活面のサポートに努める。</p> |
|---|--|--|---|---|

| | | | | |
|------------------------|--|--|--|---|
| <p>6 施設・設備について</p> | <p>(1) 校舎の耐震対策を検討する。</p> <p>(2) 教育環境の充実に努める。</p> | <p>(1) 校舎および体育館の耐震補強等の計画を検討する。</p> <p>校舎・体育館の耐震については、平成 24 年度に耐震診断を行い、耐震補強計画の検討を重ねてきたが、本校および併設大学の敷地内を通過する都市計画道路（十三高槻線の延伸工事）の進捗状況、また前記工事等の影響による併設大学を含めた学校法人全体のキャンパス整備計画の策定等により、高等学校単独の耐震補強計画の検討を保留してきた。</p> <p>しかしながら、昨年度には都市計画道路に収用される本校グラウンドのセットバック工事ならびに整備工事も完了し、都市計画道路に関する学校法人の対応についても概ね終了したため、高等学校の校舎・体育館耐震補強を含めた整備計画の検討を改めて開始した。</p> <p>(2) ア ICT 教育環境の整備についてタブレット型 PC を先行導入する</p> <p>イ ICT 教育に関する教員対象の勉強会を実施する。</p> <p>本校の ICT 教育環境の整備については、施設的には前述の校舎の耐震対応にも大きく関係する問題であり、なかなか整備が進められない状況であったが、ソフト面等については、まず、一昨年度に ICT 教育推進委員会を設置するとともに、テスト導入として、40 台の i-Pad を一定期間レンタルし、一部教員によるアクティブラーニングの試行を行い、良好な結果を得ることができたため、引き続き、タブレット型 PC 導入に向けた検討を継続するとともに、全教職員を対象とした「ICT 推進勉強会」を実施し、教員全体の意識改革も同時に行う。</p> | <p>(1) 校舎・体育館の耐震計画が開始・検討されたか。</p> <p>(2) ICT 教育環境の整備と教員に対する勉強会が実施されたか。</p> | <p>(1) [○] 昨年度より校舎・体育館の耐震補強および改修計画の検討を進めてきたが、まず校舎については、やはり使用しながらの耐震補強工事には無理があるため、耐震改築を行うことを基本線に検討し、2020 年 4 月を目途に新校舎の改築・移転を決定した。</p> <p>また、体育館については耐震補強を行うことを前提に、建物設備の整備も含めて、引き続き検討を行う。</p> <p>(2) [△] ICT 教育環境の整備については、ハード面については、新校舎への移転に合わせて整備していくように考えており、現状はソフト面の整備から検討し、昨年度は試行用 i-Pad の導入や教員勉強会などを実施してきたが、今年度は ICT 教育推進委員のメンバーを中心に i-Pad を用いた授業展開やクラスでの運用方法について検討を行った。</p> <p>次年度は、全教育職員のスキルアップに繋げられるような方策を検討するとともに、生徒にも還元できるよう、ICT に限らず教育環境の充実に努めていきたい。</p> |
|------------------------|--|--|--|---|